

NPO 法人グリーンコンシューマー東京ネットは設立以来、容器包装に関するアンケート調査を続けてきました。今回は、容器包装リサイクル法改正に伴い、2年振りにアンケート調査を実施しました。容器包装の資源回収に関連した項目を中心に質問しています。

この調査結果を参考にしながら、循環型社会の構築を目指し、さらに運動を強めていきたいと思
います。アンケートにご協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

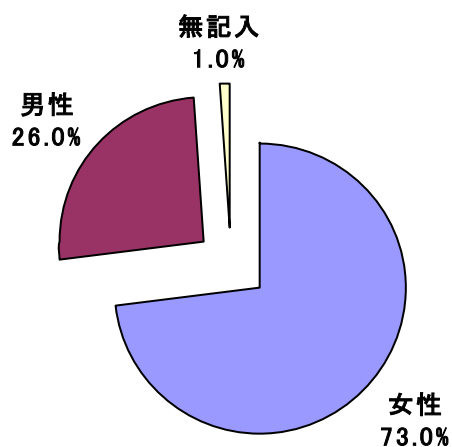
■調査の概要

- ・調査機関 2013年10月～12月
- ・配布数 1000
- ・回収数 723
- ・回収率 72.3%
- ・調査方法 郵送留置法
- ・調査対象 会員及び一般消費者

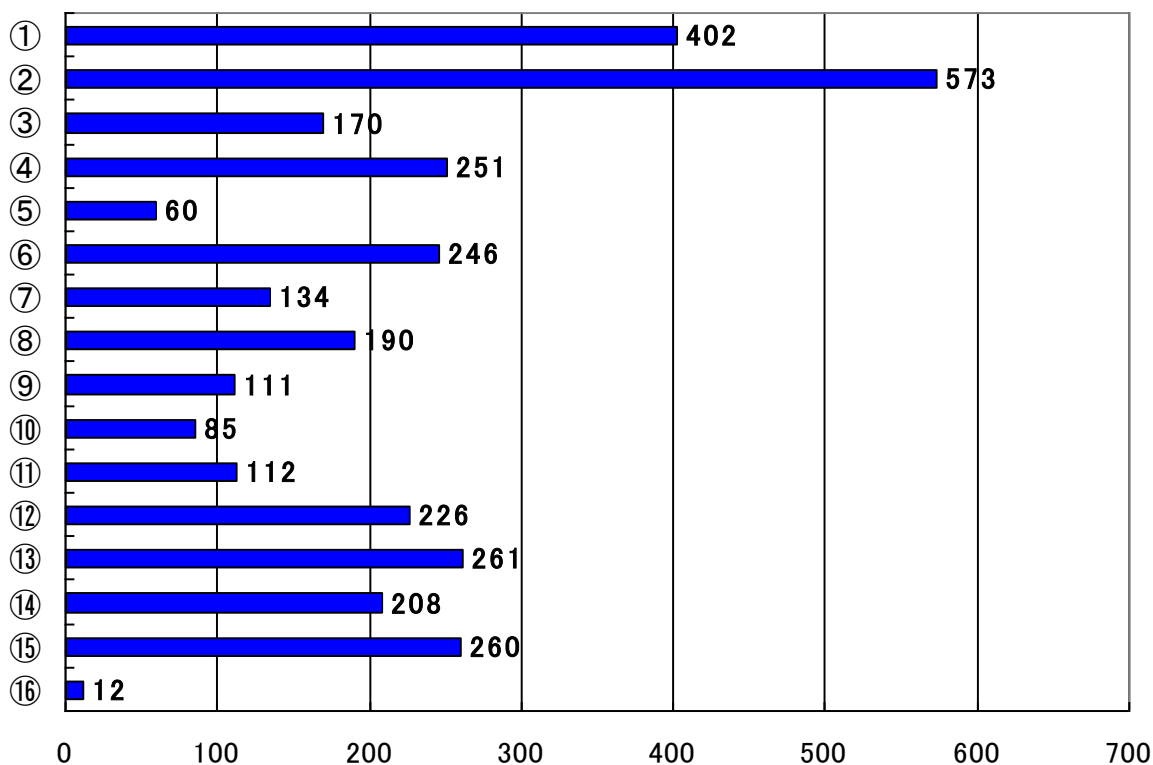
年齢別

項目	数	%
20歳未満	4	0.6
20歳代	59	8.2
30歳代	66	9.1
40歳代	97	13.4
50歳代	116	16.0
60歳代	172	23.8
70歳以上	205	28.3
無記入	4	0.6
計	723	100.0

性別



Q. 飲み物を買う時、どんな容器がいいと思いますか？ 5 つまで記入してください。



①軽い、②飲みかけでもフタができる、③こわれにくい、④中身が見える、⑤デザインが良い、⑥持ちやすい、⑦注ぎやすい、⑧口が飲みやすい、⑨場所をとらない、⑩しまいやすい、⑪そのまま温めたり、凍らせたりできる、⑫フタが空けやすい、⑬容器素材が安全、⑭ラベルやフィルムがはがしやすい、⑮環境に配慮した素材を使っている、⑯その他

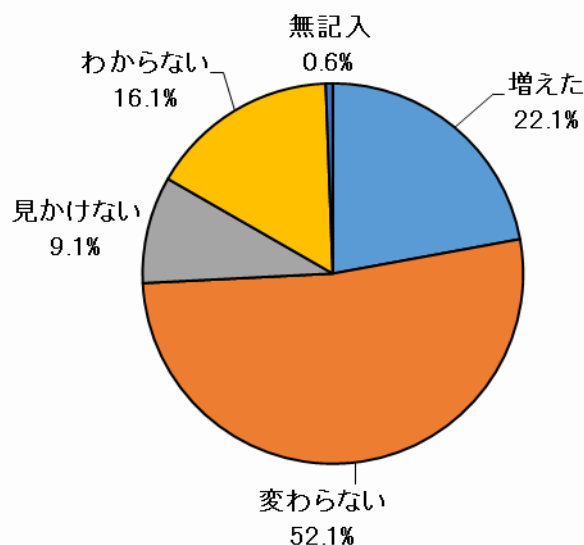
飲み物を買う時、「飲みかけでもフタができる」容器が良いと約 8 割(573 人、 79.3%)の人が回答。だんとつで第 1 位である。第 2 位は、「軽い」容器で 402 人、55.6%の人が選んでいる。続いて第 3 位から第 7 位は数値にほとんど違いがなく、約 3 割の人が「容器素材が安全」(261 人、36.1%)、「環境に配慮した素材を使っている」(260 人、36.0%)、「中身が見える」(251 人、34.7%)、「持ちやすい」(246 人、34.0%)、「フタが開けやすい」(226 人、31.3%)と回答している。

飲みかけでもフタができ、かつ軽い容器が望まれていることがわかる。飲料を持ち歩く人が多いためだろうか。さらに軽量のマイボトルが求められる。

【その他】には、リサイクルできる、冷蔵庫にしまいやすい容器の高さ・大きさ・軽さ、捨てやすい、表示が見やすい、などの記述があった。

Q. スーパーなどで生鮮品の販売時トレーを使用しますが、トレーなしの商品もあります。最近は何トレーなしの商品は？

項目	数	%
増えた	160	22.1
変わらない	377	52.1
見かけない	66	9.1
わからない	116	16.1
無記入	4	0.6
計	723	100.0



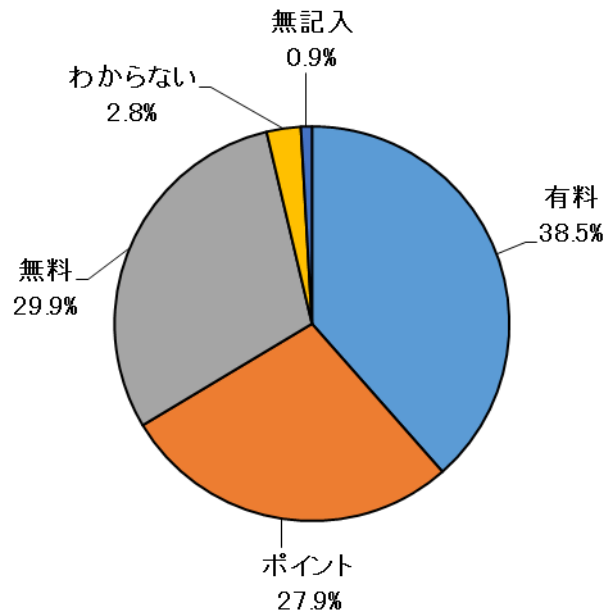
最近のトレー使用の状況を聞いたところ、半数以上の方が「変わらない」と回答している。第2位は、「増えた」(160人、22.1%)、第3位「わからない」(116人、16.1%)と続く。一方、約1割の人が「見かけない」と回答している。

地域別に見てみると、首都圏で増加傾向があることがわかった。

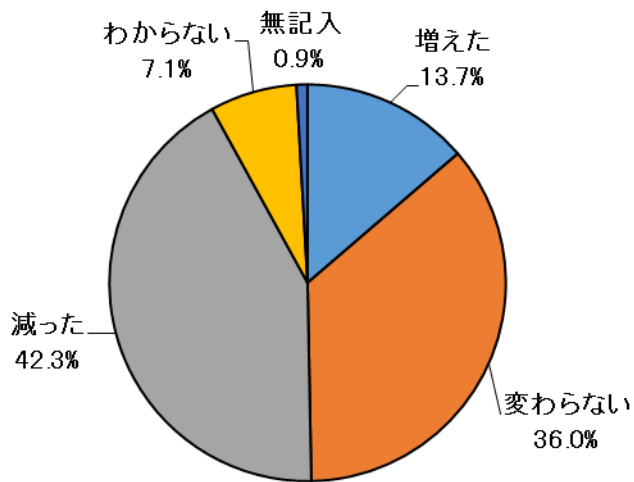
Q. あなたのお住まいの地域ではレジ袋はどのようになっていますか？

項目	数	%
有料のところが多い	278	38.5
ポイントのところが多い	202	27.9
無料のところが多い	216	29.9
わからない	20	2.8
無記入	7	0.9
計	723	100.0

スーパー等のレジ袋について聞いたところ、第1位が「有料のところが多い」(278人、38.5%)、第2位が「無料のところが多い」(216人、29.9%)、第3位が「ポイントのところが多い」(202人、27.9%)だったが、ほとんど差がない。レジ袋は無料から有料に変わってきているようだ。



Q. あなたの排出するごみの総量は5年前と比べてどのように変わりましたか？

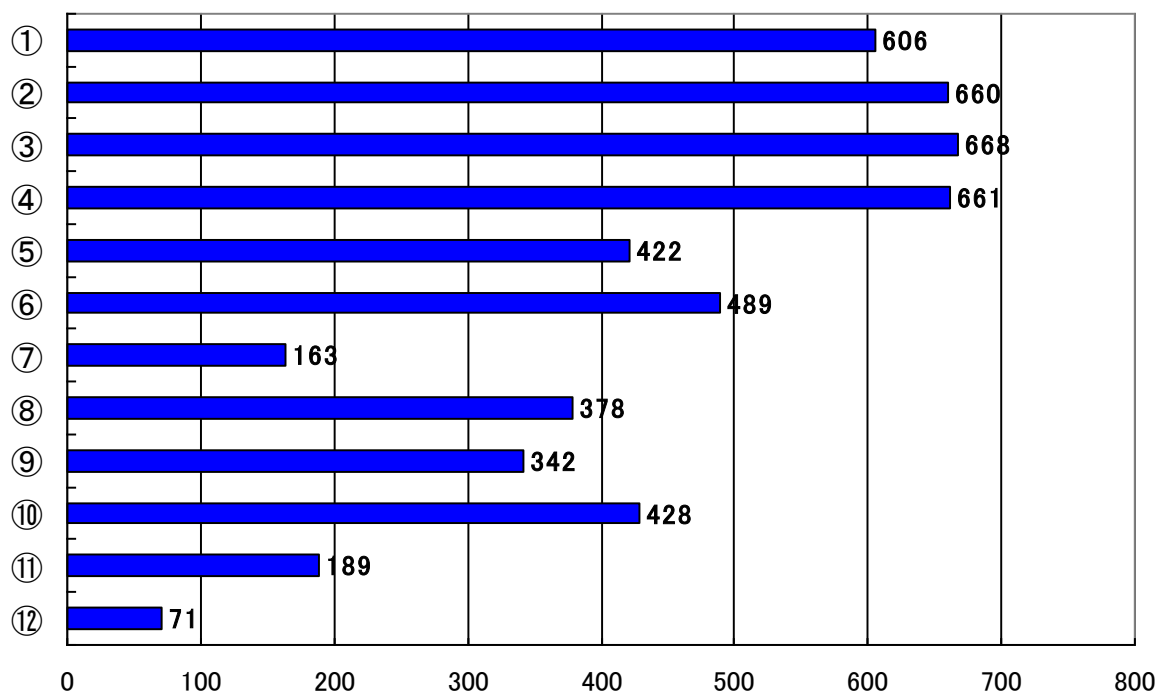


項目	数	%
増えた	99	13.7
変わらない	260	36.0
減った	306	42.3
わからない	51	7.1
無記入	7	0.9
計	723	100.0

ゴミの総量を5年前と比べると、「減った」が第1位で306人(42.3%)が回答している。第2位は「変わらない」(260人、36.0%)だった。一方、99人(13.7%)が「増えた」と答えている。家族構成の推移を聞いていないが、ゴミの総量は減る方向に向かっていると思われる。

Q. あなたのお住まいの自治体の資源収集品目を記入してください。

項目	数	%	順位
1. 紙	606	83.8	4
2. ビン	660	91.3	3
3. かん	668	92.4	1
4. ペットボトル	661	91.4	2
5. 古布	422	58.4	7
6. 乾電池	489	67.6	5
7. 廃食油	163	22.5	11
8. トレー	378	52.3	8
9. 蛍光管	342	47.3	9
10. 容器包装プラスチック	428	59.2	6
11. 小型家電	189	26.1	10
12. その他	71	9.8	12

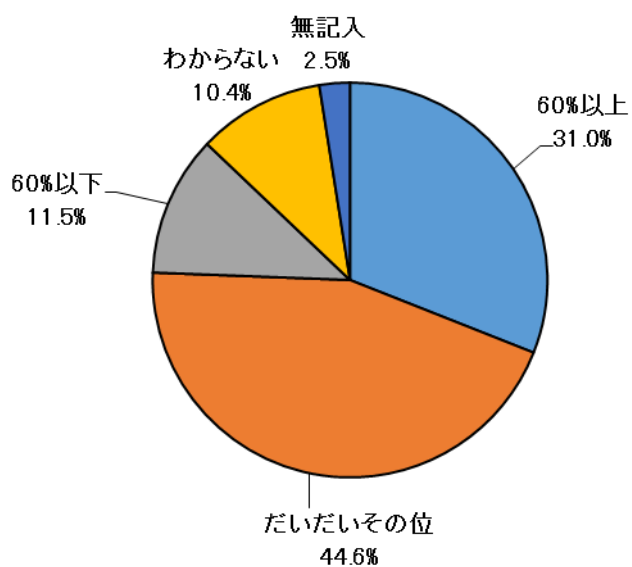


①紙、②ビン、③かん、④ペットボトル、⑤古布、⑥乾電池、⑦廃食油、⑧トレー、
⑨蛍光管、⑩容器包装プラスチック、⑪小型家電、⑫その他

資源収集品目は、「缶」(668人、92.4%)、「ペットボトル」(661人、91.4%)、「ビン」(660人、91.3%)が90%台で上位3位を占めた。続いて第4位は、「紙」(606人、83.8%)。第8位までは5割以上の方が回答している。小型家電の資源収集はスタートしたばかりだが、既に多くの自治体で収集していることがわかった。

Q. ごみに閉める容器包装材の割合は 60%とされていますが、どのように思われますか？

項目	数	%
60%以上だと思う	224	31.0
だいたいそのくらいだと思う	323	44.6
60%以下だと思う	83	11.5
わからない	75	10.4
無記入	18	2.5
計	723	100.0



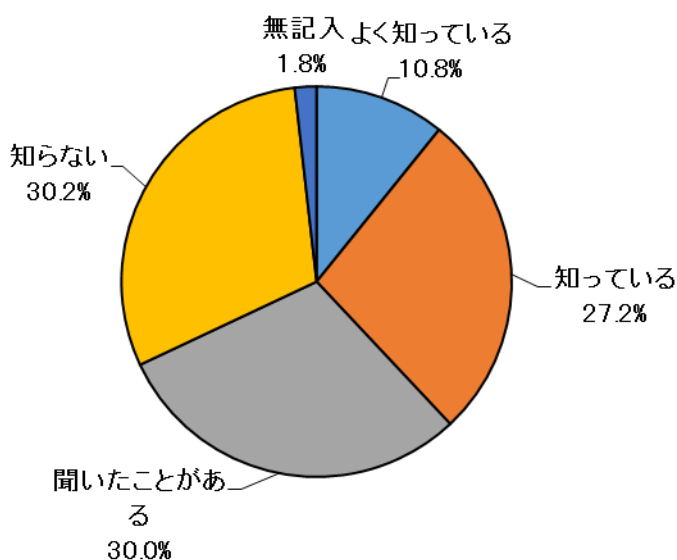
ゴミに占める容器包装の割合は、第 1 位が「だいたい 60%くらい」(323 人、44.6%)、第 2 位が「60%以上」(224 人、31.0%)で、全体の約 75%となる。

一方、それぞれ約 1 割の人が「60%以下」あるいは「わからない」と回答している。

Q. 現在の容器包装リサイクル法では自治体が税金を使って分別収集をする役割を担っています。このため事業者には発生抑制や環境配慮設計に取り組む意欲を刺激することになりません。事業者は製品の生産使用段階だけでなく、廃棄リサイクル段階まで責任を持たせる拡大生産者責任という考え方があります。

Q-1. この考え方をご存知ですか？

項目	数	%
よく知っている	78	10.8
知っている	197	27.2
聞いたことがある	217	30.0
知らない	218	30.2
無記入	13	1.8
計	723	100.0



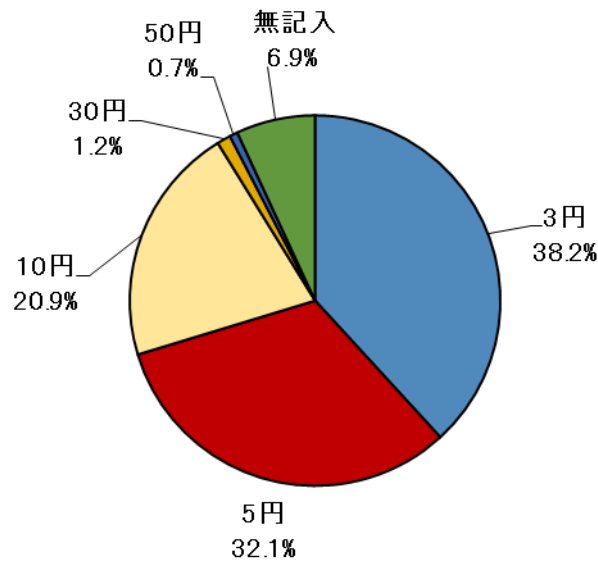
拡大生産者責任の意味を「よく知っている」のは、約1割のみである。第1位が「聞いたことがある」(217人、30.0%)、第2位は「知っている」(197人、27.2%)。拡大生産者責任という言葉を知っている、あるいは聞いたことがある人を合わせると全体の約7割となる。

一方、約3割の人が「知らない」と回答している。

容器包装のあり方を考える上で、拡大生産者責任の意味を多くの人に知ってもらうことが重要だと思われる。

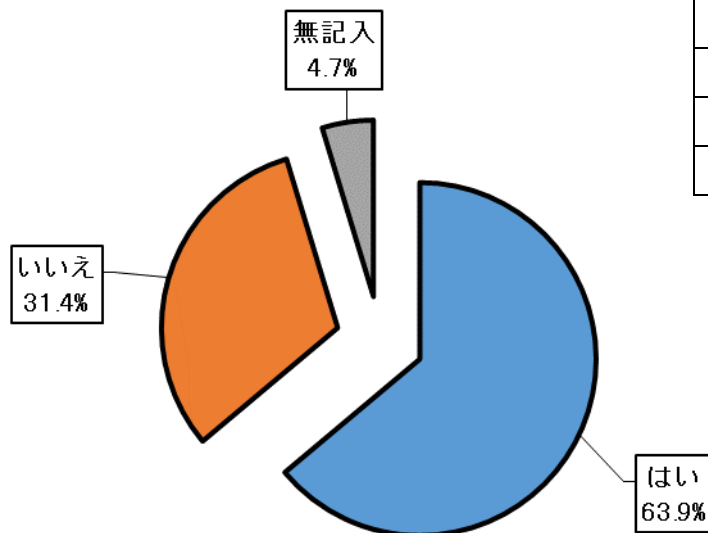
Q-2. 例えばペットボトル1本につき、いくらぐらいまでなら許容しますか？

ペットボトル1本いくらぐらいまでなら許容できるかを聞いたところ、1位が「3円」、2位が「5円」で、合わせると全体の約7割になる。



項目	数	%
3円	276	38.2
5円	232	32.1
10円	151	20.9
30円	9	1.2
50円	5	0.7
無記入	50	6.9
計	723	100.0

Q-3. 今のまま、税金でリサイクルを続けることに賛成ですか？



項目	数	%
はい	461	63.9
いいえ	227	31.4
無記入	34	4.7
計	723	100.0

今のまま、税金でリサイクルを続けることに賛成と6割以上(461人、63.9%)が回答。約3割(227人、31.4%)が反対と回答している。受益者負担との考え方もあるが、この回答を見る限り、多くの人が今のままで良いと考えていることがわかる。